

長野県下伊那農業高等学校創立100周年記念事業に関して

長野県下伊那農業高等学校同窓会

1. 100周年記念事業 会議・委員会の経緯（平成29年3月現在）

(1) 会議等

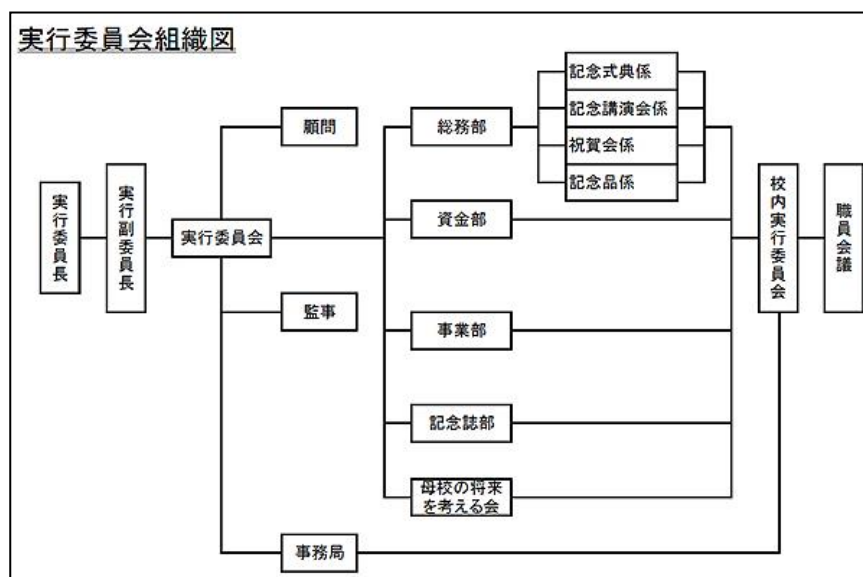
26. 5. 9 下伊那農業高校 同窓会（拡大）役員会 [ホテル吉村]
正副会長・顧問・旧職員（13名）、校内幹事
理事・代議員会の議題提案内容
26. 5.24 同窓会理事・代議員会 [稲丘会館]
下伊那農業高校創立100周年記念事業大綱議決
27. 2. 3 下伊那農業高校創立100周年記念事業小委員会 [稲丘会館]
正副会長・顧問・旧職員（13名）、校内幹事
事業規模、同窓会実行委員の選出
27. 4.15 下伊那農業高校創立100周年記念事業実行委員会準備会 [稲丘会館]
正副会長、実行委員候補（19名）、校内幹事
実行委員組織作り
27. 5.13 第1回 下伊那農業高校創立100周年記念事業実行委員会
[下伊那農業高校会議室・ビーラクス松川]
正副会長、実行委員（同窓会・PTA・学校 53名）
委員長の決定、記念事業の確認、係分担
27. 9. 9 第1回 下伊那農業高校創立100周年記念事業実行委員会資金部会
[下伊那農業高校応接室 8名]
27. 9.18 第1回 下伊那農業高校創立100周年記念事業実行委員会総務部会
[下伊那農業高校会議室 20名]
27. 9.18 第1回 下伊那農業高校創立100周年記念事業実行委員会記念誌部会
[下伊那農業高校第2応接室 20名]
- 27.12.11 第2回 下伊那農業高校創立100周年記念事業実行委員会
規約、趣意書、予算書、各部事業計画
[稲丘会館 53名]
- 28.1.15 第2回創立100周年記念事業実行委員会記念誌部会
[手打ちとんかつ「志端」 12名]
記念誌編纂委員の候補について
28. 2.22 支会長・実行委員合同会議
記念事業実施内容、募金協力について
[シルクホテル 75名]

- 28.6.20 第3回創立100周年記念事業実行委員会記念誌部会
[下伊那農業高校第2応接室 8名]
今後の進め方と記念誌編纂委員会の組織作り
- 28.8.19 第4回創立100周年記念事業実行委員会記念誌部会
[小燕 7名]
記念誌編纂委員長及び編纂委員の構成
- 28.11.10 第5回創立100周年記念事業実行委員会記念誌部会
[手打ちとんかつ「志端」 8名]
記念誌編纂委員の候補について
- 29.1.20 第6回創立100周年記念事業実行委員会記念誌部会
第1回記念誌編纂委員会の合同開催について
[稲丘会館 22名]
記念誌編纂委員長及び編纂委員の委嘱
- 29.2.24 第2回 下伊那農業高校創立100周年記念事業実行委員会総務部会
[下伊那農業高校会議室 23名]

(2) 県関係

- 27.11.20 長野県教育委員会へ創立100周年記念事業について申請
- 27.12.4 長野県教育委員会 創立100周年事業について承認
- 27.12.11 長野県教育委員会へ寄付申し出
長野県教育委員会へ寄付受納に関する証明申請
- 27.12.28 長野県教育委員会より公有財産の寄付受納通知

2. 組織図



創立 100 周年記念事業実行委員会を同窓会・PTA・学校の三者で組織し、総務・資金・事業・記念誌・母校の将来を考える会の 5 部で構成している。

記念誌編纂は記念誌部が担当し、編纂委員長が決定し、現在は記念誌の構想と編纂委員を選考している段階である。

記念式典・講演会・祝賀会は総務部が担当し、100 周年記念事業に見合ったものとするため、80 周年記念事業を参考に部会にて検討中である。

3. 趣意書

下伊那農業高等学校創立百周年記念事業賛助金趣意書

長野県下伊那農業高等学校は、大正九年に地域の農業振興を目的に郡立下伊那農学校として稲井ヶ丘に誕生しました。その後、県立移管、施設設備の拡充、学制改革、定時制の設立と統廃合、学科改編等の幾多の変遷を経て今日に至り、平成三年に創立百周年を迎えることになりました。

卒業生は、創立以来半日まで一万八千名を超え、この地域の農業をはじめ産業界の発展に大きく貢献するとともに広く全国の産業界各分野で活躍していらっしゃいます。今後、社会がいかに変わろうとも、校歌の一節にある「豊はわがらのいのちかな」の心を大切に、地域社会の有益な人材養成に責任をもつ高校として発展し続けていくことを願っています。

この上、本校一世紀にわたる教育活動の歩みを振り返り、これからの新しい時代に対応した学校のあるべき姿を展望し、将来の発展を期するため、同窓会、PTA、学校の三者が一体となって、地域の皆さんの協力を得て、平成三年に創立百周年記念事業をおこなうこととなりました。

つきましては、左記の事業を計画しておりますので、趣意を賜察のうえ、下伊那農業高等学校発展のためご活用を賜りますようお願い申し上げます。

記

一 創立百周年記念事業の内容

- ・ 農業学習施設建設
- ・ 地域と連携した農業学習の活動拠点とし、教育環境の充実
- ・ 学習環境整備
- ・ マイクロバスの更新
- ・ 記念誌編纂
- ・ 記念式典、記念講演会、祝賀会

二 募金期間 平成二十八年六月一日 ～ 平成三十年五月三十一日

三 募金額 一〇 五千元(できれば一〇以上)

平成二十八年 五月 吉日

下伊那農業高等学校創立百周年記念事業実行委員会
委員長 関島 伸喜

4. 記念事業の内容に関して

(1) 「農業学習施設」の建設について

① 「農業学習施設」建設の目的

○本校の現状

- ・ 在校生の活発な活動(農業学習・地域との連携・班活動等)が報道機関を通じ、頻繁に報道されている。
- ・ 前期選抜、後期選抜における志願者数に見られるように、中学生にとって「魅力」「関心」のある学校となっている。

・平成 27 年度卒業生のうち 3 名が国公立大学（筑波・宇都宮・秋田県立）に進学するなど、進学意欲も高まっている。

○県下には公立高校だけでも約 90 校が存在し、それぞれの学校が教育環境整備のための要望をしているため、県に頼るだけでは教育環境はなかなか整わないのが実情である。

○県では、第 2 期高等学校再編計画が進みつつある。

上記現状下において、生徒・学校の勢いを維持し、同窓生が母校に強い関心を寄せていることが、将来にわたり下伊那農業高校という単独農業高校として存続する大きな要素となると考えている。

②建物の使用目的

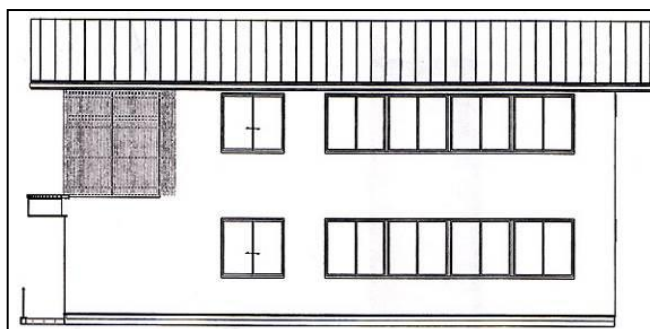
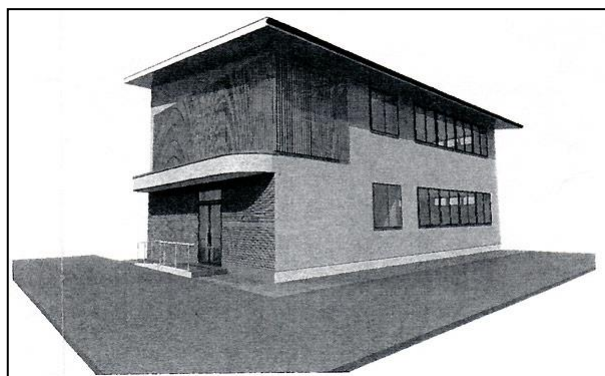
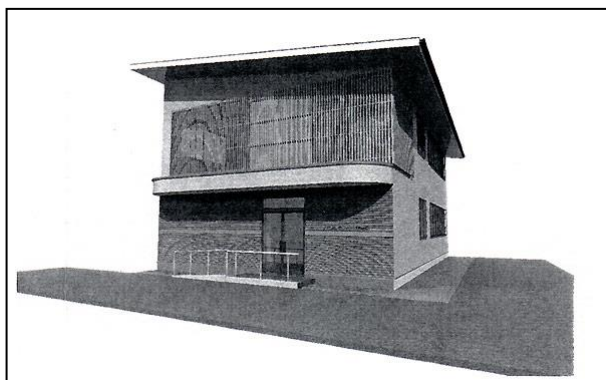
第 79 号「稲丘時報」の「創立百周年記念事業進捗状況報告」や支会長・実行委員会の資料にありますように、地域と連携した農業学習の活動拠点であり、卒業生から頂いた資料などを保管する農業資料館として役割も担わせたいと考えている。

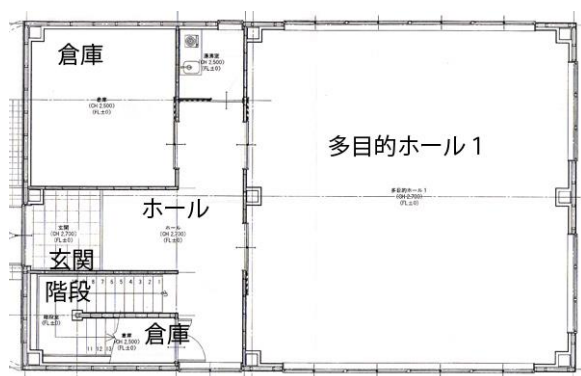
建物について

二階建て 床面積 18.4m × 9.0m 延べ 80 坪

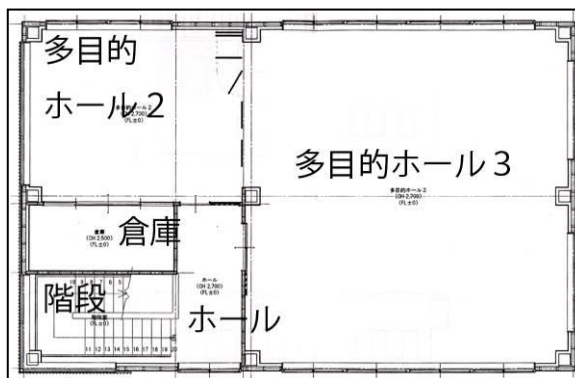
1 F → 資料室、多目的ホール 1 部屋

2 F → 資料室、多目的ホール 2 部屋





1階



2階

(2) マイクロバスの更新・記念式典・講演会・祝賀会

① マイクロバスの更新について

創立 80 周年のおり購入頂いたマイクロバス 1 台の更新予定。

② 記念事業に関して

創立 100 周年記念事業実行委員会を同窓会・PTA・学校の三者で組織し、総務・資金・事業・記念誌・母校の将来を考える会の 5 部で構成している。

記念誌編纂は記念誌部が担当し、編纂委員長が決定し、現在は記念誌の構想と編纂委員を選考し、毎月定例にて編纂委員会を開催している段階である。

記念式典・講演会・祝賀会は総務部が担当し、100 周年記念事業に見合ったものとするため、80 周年記念事業を参考に部会にて検討中である。

5. 募金額について

募金活動は創立 80 周年記念事業のおり、実施（1口 6,000 円）した。創立 90 周年記念事業のおりは、今回の創立 100 周年記念事業を見据え、募金活動は実施しなかった。

事業予算を勘案し、一口 5,000 円とした。「広く浅く」を念頭に、より多くの同窓生が賛同し協力頂くことを期待したものである。見積もりの取れるもの（農業学習施設・マイクロバス）は見積もりを取った。

募金活動の現状

各支会毎、支会長さん・役員さんを中心に募金に関する打合せ会や支会総会を開催する中で、募金活動に関する方法論の検討を頂いている支会が多い。具体的には各支会活動が開始されている。一部はすでに 100 周年記念事業の口座に振込を頂いている。